

令和5年度 第1回草津市行政経営改革推進委員会 会議録

■日時：

令和5年7月11日（火） 午後1時30分～2時30分

■場所：

市役所1階 101会議室

■出席委員：

黒川委員長、中委員、井上委員、伊藤委員、遠塚委員、松本委員、木村委員

■欠席委員：

今里副委員長、山本清治委員、山本善美委員

■事務局：

荻下総合政策部理事、経営戦略課 岸課長、田中係長、土井主任

■傍聴者：

なし

開会

1 あいさつ

【荻下総合政策部理事】

本日ここに、令和5年度第1回草津市行政経営改革推進委員会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、御多用のところ御出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、皆様には、令和3年3月に策定いたしました「草津市行政経営改革プラン」の着実な実行と改革の成果を確実なものとするため、専門的な見地から、また市民の視点で幅広く、御意見、御指摘をいただきたく、当委員会の委員として委嘱させていただいたところでございます。

さて、世界を混乱に陥れた新型コロナウイルス感染症が、国内で初めて確認されてから3年以上が経過いたしました。5月から、感染症法上の位置付けが「2類相当」から季節性インフルエンザと同等の「5類相当」へ引き下げられました。この間、当委員会におきましても、委員会の一部の開催を書面開催としたことや、会議資料のペーパーレス化など、長期にわたり、感染防止対策に御協力をいただきながら各種行政経営改革を進めてきたところでございます。一方で、こうした取組やテレワークなど、コロナ禍が、業務の見直しやICT化の契機となった面もでございます。今後も、ポストコロナ社会も見据え、行政運営の効率化を目的とした先端技術の活用など、「草津市行政経営改革プラン」で掲げる「業務プロセスを進化させる取組」と「経営資源をよりよい状態で

引き継ぐ取組」を着実に進めることにより、時代の変化に対応した最適な行政サービスの実現に向け、改革の成果を後退させることなく、より一層具体化してまいりたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、行政経営改革の推進に何卒格別の御協力・御支援を賜りますようお願いを申し上げます、甚だ簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

2. 委員の紹介、事務局の紹介

<資料1 委員名簿について説明し、各自、自己紹介と挨拶>

3. 草津市行政経営改革推進委員会について

<資料2 附属機関設置条例と規則について説明>

4. 今年度の委員会における議題および進め方について

<資料3 今年度の草津市行政経営改革推進委員会における議題および進め方を説明>

5. 委員長、副委員長の選出について

互選により、黒川委員を委員長に、今里委員を副委員長に選出。

6. 草津市行政経営改革プラン 実施計画（アクション・プラン）について

<資料4～6に基づき説明>

【井上委員】

各実施計画の目指す姿や目標値について、それらの達成に向けた取組が合致していないと感じた部分がある。例えば、実施計画のうち、「公共施設等総合管理計画に基づく施設マネジメント」については、目標値として「人口一人当たりの公共建築物延べ床面積」を掲げているが、様々な施設がある中で、延べ床面積を目標とするだけでは評価できない部分があると考えている。また、実施計画のうち、「事務事業の点検とBPR手法を活用した業務の見直し」では、手法の一つとしてRPAを活用することであるが、RPAについては、下火になってきているとも考えている。草津市では、2年程前から取り組み始めたと考えているが、近年では、急速にRPA以外の様々な技術が開発されている。

【委員長】

先端技術の例で言えば、ChatGPTをはじめとする生成AIの活用について、大学でも問題になっている。例えば、文書の作成等、行政においても効率化できる部分は

あると考えるが、それらを取り扱う側（人）の問題が挙げられる。

【伊藤委員】

先端技術に関連して、最後は（取り扱う）「人」だと思う。人材の確保や育成も重要ではないか。行政は3年程度で人事異動があり、業務内容によっては、経験年数が長い会計年度任用職員の方が、経験年数が短い正規職員より多くのことを知っていることもある。外から見ていて、正規職員と会計年度任用職員の逆転現象が起きている部署もあると考えている。

【委員長】

職員提案制度や、プロジェクトチームの活用など、部局を横断した取組もできていることは評価できるが、人材の確保や育成については課題の一つであると考えている。

【中委員】

「資料5」9ページの実施項目「財政規律ガイドラインに基づく取組の推進」では、「物価高騰、社会・国際情勢等の変動がもたらす影響に適切に対応」といった表現があるが、具体的にはどのような対応を行ったのか。

【事務局】

物価高騰については、当初予算編成後、想定を上回る状況であったことから、各種支援策や事業者への対応等、国の交付金も活用しながら、数度の補正予算を編成し、基金等（財政規律ガイドラインで掲げる指標）にも留意しつつ、財政運営を行ったと把握しております。

【中委員】

「資料5」14ページの実施項目「公共施設の運営の効率化」では、「指定管理者制度運用ガイドラインの見直し」とあるが、どのような内容か。

【事務局】

指定管理者制度を導入している施設の評価等については、これまで、1つの委員会で実施しておりましたが、より専門的な視点を取り入れるため、分野ごとに3つの委員会を設置するとしたところです。令和4年度は、これらに係る必要な手続を行い、令和5年度以降、具体的に動いていくことを把握しております。

【中委員】

「資料5」15ページの実施項目「市有空閑地の活用・処分」では、「一部について利活用の方針を定めた」とあるが、どのような内容か。

【事務局】

地権者との調整状況等、公表することで進捗に支障をきたす恐れがあることから、内容については非公開とさせていただきます。申し訳ありません。

透明性の確保や、市民参加の機会の創出といった観点から、適切なタイミングで、担当課から市民の方々に情報提供があることについて、御理解をいただければと考えております。

【中委員】

「資料5」18ページの実施項目「業務見直し工程表の活用による既存事業や業務の見直し」の実績値（削減額）が2段書きとなっているが、どのように考えれば良いか。

【事務局】

削減額については、事業費と一般財源額（事業費から国等の特定財源を差し引いた実質的な市の持ち出し）を併記しているため、2段書きとなっております。

例えば、令和4年度の実績値（計画期間中の削減額の累計）は、事業費として707万円増加した一方で、一般財源額として1,660万円を削減したという見方になります。

【遠塚委員】

業務見直し工程表の実績等、様式への記載内容だけでは把握できないような項目もある。

【事務局】

今後の説明について、引き続き理解いただけるよう努めるとともに、必要に応じて、追加資料も配布させていただきます。

【松本委員】

各実施項目に記載している内容について、理解するのに精一杯である。

【事務局】

今後の資料について、引き続き分かりやすい資料作りに努めさせていただきます。

【木村委員】

各実施項目について、目指す姿等が記載されているが、そもそも課題が何か分からない部分が多く、課題が分からないと意見もしづらい。

【黒川委員長】

今回の（報告）資料は、要約している部分が多く、松本委員から「理解するのに精一杯」との意見があったことも、率直な感想であると考え。一言で言うのは難しいが、全体としては、限られた資源の中、如何に効率を上げて、市民サービスを良くしていくかということになる。（今後の委員会において、個別の審議事項となると課題が明確に見えてくる部分もあるが）一覧表となると、全体としてこのような取組を行い、その中で目標値に満たない部分があったという内容に留まってしまうため、事務局としては、今後、丁寧な説明を心がけられたい。

私の方からは、活用を検討すると報告があったChatGPT等の生成AIについて、事前に事務局に内容の確認を行った。また、（伊藤委員から）人材の話もあったが、女性の社会進出について、日本では、特に政治の分野で世界より遅れていることなどからも、今後の市の取組について注視していきたいと考えている。各委員についても、市のホームページを閲覧するなど、事前に勉強の上、質問を用意いただくと良い会議になると考えるので、お願いしたい。

閉会

【荻下総合政策部理事】

本日は様々な方面から、御指摘等をいただきありがとうございました。

今後、本市の行政経営改革のさらなる推進に向けて、委員の皆様にはいろいろとお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。